

平成25年度(2013年度) 特別支援教育に関する研究Ⅱ
特別支援教育に関するハンドブックの作成

— 気付きを支援に生かすためのハンドブック「自己肯定感を育てる特別支援教育」 —

研究員 高尾陽子

キーワード

自己肯定感

障害特性の理解と支援

気付きを支援に生かす

自ら考え、学ぶ

具体的な場面のワークシート

県内の事例を集めたコラム

1 研究の背景と目的

特別支援教育を充実させるために、教員の専門性の向上が求められており、教員は特別支援教育に関して常に学び続けることが必要である。中でも若手教員にとって、特別支援教育に関する基礎的な知識や教育方法等を自ら学び、実践に生かしていくことは重要である。

一方、滋賀県総合教育センターの特別支援教育相談事業では、相談件数が増加しており、中には二次障害が疑われ、児童生徒の自己肯定感が大切に育てられていないのではないかと考えられる事例もある。このような現状において、「自己肯定感を育てる」視点とそのための取組が重要だと考える。

そこで、ハンドブック「自己肯定感を育てる特別支援教育」を作成する。このハンドブックは、障害特性等の児童生徒理解に関する情報、具体的な支援方法、分かりやすい授業づくりのヒント、支援体制の在り方、特別支援教育の経過や法的根拠の変遷などの基礎的な知識についてまとめたものとする。

ハンドブックで学ぶことを通して、若手教員が児童生徒の困っている姿に気付き、その背景・要因を支援に生かす力を付けることで、児童生徒の自己肯定感を育てることを目指したい。

2 研究の方法

ハンドブックの作成に当たり、そのコンセプトを検討した。まずは教員が、自分が関わる学級に発達障害が疑われる児童生徒がいることに「気付く」ことがスタートであり、そこから発達障害の理解と支援について学ぶことが重要である。その際、「自己肯定感」を育てる視点を特に重視したいと考えた。

また、若手教員の特別支援教育に関するニーズを把握するための調査を実施し、その結果をハンドブックに反映させた。アンケートから、発達障害が疑われる児童生徒への対応に苦慮し

ている実態があること、具体的な指導や対応の方法を学びたいと考えていることが分かった。児童生徒の特性を正しく理解し、適切な支援が自分で考えてできる力が必要だと感じた。

そこで、ハンドブックは、本文とコラム、ワークシートから成るものとし、本文では基礎的な事柄について学び、コラムで専門的な内容を身近に感じ、ワークシートでは、具体的な場面について「自ら考え、学ぶ」こととした。特にワークシートは、自らの実践を振り返ること、児童生徒の行動の背景や理由を考え、具体的な支援を考えることができるように工夫した。

3 結果

A市において、小・中学校の初任者を対象にハンドブックを活用した研修を実施した。

ワークシートを基にしたグループ協議では、事前に初任者が記入したワークシートの内容を他の初任者と話し合うことで、児童生徒の見方への新たな気付きがあったり、支援への考え方が深まったりする様子が見られた。

研修後のアンケートでは、板書や掲示物を工夫するようになった、児童生徒が困っている理由を考えるようになった、自身の言葉かけを肯定的にしようと見直したなど、学びを実践に生かしている様子が見られた。

4 結論

特別支援教育に関する基礎的な事柄を学んだことで、教員が児童生徒の困っている姿に気付き、その背景・要因を考え、児童生徒への支援や授業づくりに生かすことができた。特に、ワークシートを活用することで、自身の実践を振り返り、考え、学ぶことにつながった。そして、教員がハンドブックで学ぶことによって、自己肯定感を育てることの大切さに気付くことができた。

自己肯定感を育てる

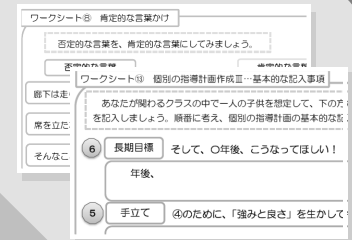
子供が困っていることに気付く

ハンドブックの活用

自ら考え、支援を工夫する

ワークシート

具体的な場面について
自ら考え、学ぶ



本文

特別支援教育の基礎的な事柄を知る

コラム

専門的な内容について身近に感じる

第1章 ケースから考える

第4章 つながり…連携と進路

第2章 子供の理解…障害特性

第5章 特別支援教育の制度

第3章 特別支援教育の手法

資料 用語解説・参考文献

若手教員用のハンドブック

「自己肯定感を育てる特別支援教育」の作成

初任者アンケートから
特別支援教育について感じていること
発達障害が疑われる児童生徒の対応が難しい
具体的な指導や対応の方法を学びたい

特別支援教育相談数増加
(滋賀県総合教育センター)
二次障害が疑われるケースもある